

連日、ネットニュースのコメント欄にはさまざまな意見が飛び交っている。中には意図的に、まるで敵を討つかのようにパソコンやスマートフォンを武器にして強く批判する人がいて、気がめいってしまつこともある。そこには言葉を受け取る側に対する思いが全くと言っていいほど欠落している。

「いいね!」をクリックする人たちの「輪」が瞬間に広がっていくのを見て取れる。自分と同じ考えの人がたくさん集まる「ちようどいい湯加減の言語環境」に漬かるような感じなのだろうか。

新学習指導要領の基になった2016年12月の中教審答申は「教科等を越えた全ての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力」の一つとして「クリ

月 曜 論 壇

「クリティカル」に生きる

米 田 進



ティカル・シンキング」を挙げている。これは21世紀を生きる力、あるいはグローバル時代を生き抜くために必要な力の一つとしても取り上げられている。学校教育などを通してできるだけ身に付けさせたい能力だ。

調べてみると「批判には見分け定め」という意味があり、「人物・行為などの価値・正当性などを評価すること」とある。もちろん「否定的な内容を言う場合が多い」ともある。

い解決策、改善策を求めて話し合う場面で重要となる。そこでは、それぞれの見地、立場から根拠などを示し、「こうすべきだ」とか「この方がいい」などと自分の意見を述べ合う。その過程で各自が相手の意見の咀嚼を重ね、自分の考えを深めながら、

とする考え方・姿勢」と捉えていい。こうした姿勢が大切なのはフォーマルな会議などの場だけではない。カジュアルな懇談、対話の際もこの言葉を心に刻み、有意義で有益な場にしていきたいものだ。

ical)の訳語の一つに「批判的」がある。「クリティカル・シンキング」は批判的思考となる。一般的に日本語で「批判」と言うと、「反対する」「受け入れない」などと否定的な意味で用いられることが多いのも事実である。

て判断し、意思決定すること」と理解していいと思う。また「クリティカル」を考えるには、偏見や勝手な決め付けなどを取り除き、他人の主張をうのみにしないことも必要である。

より良い方策や新たな発想に基づき解決策を探っていく。これが望ましい形である。いわば「クリティカル・シンキング」とは「他人の意見を正確に受け止め、理解を深めながら建設的な態度で話し合い、最善策、解決策などを引き出そう

なお、本稿も「クリティカル」に読んでいただければありがたい。(前真教育長、秋田市住)